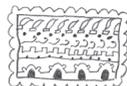


やながわ宇宙科学技術フォーラム特別講演

(2025年12月19日 s u i t o やながわ)



若田光一さんがやってくる。そのことを聞きつけた私は、講演会の会場へと向かった。私が宇宙のことを理解できるとは思えない。でも、若田さんならそんな人物がくることも想定内だろう。

壇上に現れた若田さんはキラキラしていた。にこやかに宇宙飛行士としての訓練や宇宙飛行中に行った実証実験、船外活動などをテンポよく解説していった。

特に印象に残った話は、長期間の無重力状態が及ぼす人体の影響のことだった。長期間の滞在で背骨と大腿骨の骨密度が低下しやすくなること、腎結石を起こしやすくなること、地上にいた時より体温が1℃ほど上がり、同じカロリーを摂ると痩せていったことなどを語っていた。

また宇宙飛行士の訓練では、医療の緊急現場を見学したり、模型で抜歯をしたこともあるらしい。

質問コーナーで、若田さんは質問者の側まできて丁寧に答えていた。会場の子ども達にとっても一生の思い出となったことだろう。

(尾花照子)

「岡本太郎 生きることは遊ぶこと」

(川崎市岡本太郎美術館)



川崎市多摩区にある岡本太郎美術館が、施設改修のため三月末からしばらく閉館することを知り、出かけました。

閉館前最後の常設展「生きることは遊ぶこと」は、岡本太郎の人生と芸術における「遊び」をキーワードに、絵画や写真、彫刻など約百二十点を紹介、展示しています。岡本にとって遊びとは単なる娯楽や余暇ではなく、自身の全存在をかけて勝負する、生きることそのものでした。

鮮やかな色彩で目を引いたのが油彩画「重工業」。工場内でグルグル回る歯車や蒸気を吐くパイプ、飛び散る火花に翻弄される人びと。その中央に巨大なネギが描かれています。この作品は相反するものや関係性のないものを絵の中でぶつけあうことで新しい芸術が生まれるとする岡本の「対極主義」を表しています。俳句や短歌の世界にも二物衝突という創造の手法があり、通じるものがあります。

「椅子のコーナー」では作品に座ることができません。座面がデコボコな「坐ることを拒否する椅子」もあり、遊び心満載の展覧会です。

(人見江一)